

但し今の處内地官吏の事

【東京通信】六日午後、日本赤十字會が、米米度の戒厳令に、破顔する趣意のある事項となり、井上義和、田中義典、前日官相を會見し、大體印關の止むべきは、調停希望なりと、交年度各省豫算の人員費は事情に應じ五分乃至一割を天引し、二百萬圓を捻出する案を樹て司法省を最後に各省の同意を得たので、藏相から近く閣議に報告される筈である。しかし右の案は、世の補充金によつて生ずる財源を根本とし、不足額には、眞手等費と密納し、所定額を捻出するところである。右は右のところが一覽貫道に限られてゐるが、藏相は豫算前にも

次いて河合大將も起たう

[illegible]

にすると凄い一部

◇倫敦條約と樞府

[illegible]

擴大會議の代表

[illegible]

天軍の關内進出

北平卅日發信云、奉天軍の通州入、遼寧秦大帥が南北派の調停に關しては種々の陳說が有はれるが、張學良氏が關内出兵を拒するに付た眞意は南北派が、るもので、依然として中事の延長と見られてゐる

大藏省に提議

【東京四日電】海軍省が、來年
の大蔵省提出はロンドン條
約の擴充計劃が未決定のため

十萬圓を計上
文部省の所

日魯漁業
漁獲成績

最後の決定は判ら

[illegible]

明年度は難し

[illegible]

即夜幹部

天祐一日發遣、源義親氏の北
上より引揚げと同行して馬場原代
々上り藤原方、皆白河等北方
表を以て同前并に歸降し、北交
は其の中心は再び平家へ移つた。
この結果として平家は又八世
源氏義親氏等北條部を召喚し、な
在中の政務を取扱したるの東
四名の時勢を鑑する處ありと
深慮におとしめたり。如作相、源
氏、源氏等の未だ符を執らずに
顯す事となつて、大守符を得

國府代表張

[illegible]

判人六十一名は

日長沙茶雷と飛行機のはるに加へて、遊樂民を誘致せる思ふによれば、共產軍朱德の船十隻下航し來り、長沙市中は、厨混同と不安を加へてゐる、一

北
軍
は
退
却

防備軍と援軍に撃退され

強復漢氏

大津藩一員渡電 韓海軍氏は冊
山県民政府首座に任ぜられた
ホーランド議會
大津英界は天祐社會 基督
婦人會屬京城支節主體期一日
朝六時より六時半迄町二丁目
ゾヂスト教會で保く

下院は十一月十六日上院は

爆彈庫奪取
の陰謀挫折
○廿九日深夜、政府関係者
○入本城上士（前最高顧問秘書）
○由本郷市氏
○十日被退却
○松岡正男氏（本部長）領部補
に於ける教育出展者の許儀に
列し二十一日發給す

米ベル・リマ甘九日發

仁川干潮時 (一)
 潮位 午前十二時四十五分
 午後十一時卅五分
 午前四時卅五分
 午後四時四十五分

朝山長三作

息子 本木 一之丞
 御殿 日本左衛門の一姫と、怪賊
 田嶋馬の姫と、刀、七百を手に
 手配に際かして、誑惑となつた。
 かりんくとして、この竹川町の奥
 一姫馬、刀を引け。今此處へ
 止めたが、どうもその危い事。
 身時に急げが所い、此處へ
 と戦馬、銀足下りに素早く走
 出たが、




謹啓 毎度格別の御引立を蒙り雖有御
禮申上候 査

整店吟醸キツコユウ醬油も今蔭を以て
至全昨の年と共に認められ御愛用家
益々激増致し年々の増石も尚且不足
を告げ從來の工場にては漸次狹隘を來
し昨春以來化學的設備の粹を整備せる
合理的模範工場新築中の處今且茲に完
成し愈々大量生産を以て優良品を廉價
に提供し得る確信を得多年の理想を實
現すべく秋に到達致し候

就ては平素の御鴻恩の萬一にも酬ひ聊
か自祝の意味を兼ね景品附特賣相催し
候間僥倖の御愛用賜らん事を切に御願
申上候 敬白

九月廿日 鳴屋釀造所

大正九年



十月末日迄

キッコーヌウ醬油

小樽壹丁毎に

實味淋 (両合〇壹本

又は

都味噌 (八百〇〇)

壹罐進呈

キッコーヌウ瓶詰

壹本毎に

喜樂館入場券

又は

タオル一枚進呈

御買物の暇時間に、お買物をなさ

